

県医活動報告

第7回男女共同参画フォーラム

メインテーマ「育てる～男女共同参画のための意識改革から実践へ～」

日 時：平成23年7月30日(土曜日) 午後1時～午後5時

場 所：秋田ビューホテル4階「飛翔の間」(秋田市)

主 催：日本医師会／担 当：秋田県医師会

報告者：常任理事 三倉 剛

開 会
挨拶

総司会：秋田県医師会常任理事 小泉ひろみ
秋田県医師会副会長 斎藤 征司
日本医師会会長 原中 勝征
秋田県医師会会長 小山田 雍

基調講演「これからの「支え手」を考えるー男女共同参画と子ども・子育て支援ー」

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)／内閣府自殺対策推進室長／
内閣官房内閣官房副長官補付内閣審議官／待機児童ゼロ特命チーム事務局長

村木 厚子

座長：秋田県医師会副会長 坂本 哲也

日本医師会常任理事 保坂シゲリ

提 言「災害と男女共同参画」
報 告

1. 日本医師会男女共同参画委員会

日本医師会男女共同参画委員会委員長／秋田県医師会理事 小笠原真澄

2. 日本医師会女性医師支援センター事業

日本医師会女性医師バンク中央センター統括コーディネーター／

日本医師会男女共同参画委員会副委員長 秋葉 則子

シンポジウム 「育てる～男女共同参画のための意識改革から実践へ～」

座長：秋田県医師会女性医師委員会委員 小野 剛

日本医師会男女共同参画委員会委員長／秋田県医師会理事 小笠原真澄

1. 医学生を育てる

教育する立場から

秋田大学医学部総合地域医療推進学講座 蓮沼 直子

学生の立場から

秋田大学医学部4年生 大内 祐香

2. 若手医師(研修医)を育てる

平鹿総合病院循環器内科科長 伏見 悦子

3. 専門医を育てる～キャリアアップ支援システムについて～

藤田保健衛生大学医学部脳神経外科教授／

藤田保健衛生大学病院救命救急センター長 加藤 庸子

4. ターニングポイントにある医師を育てる

ー仕事を継続する～再研修システムを含めて～

東京女子医科大学附属女性生涯健康センター教授／副所長 檜垣 祐子

5. 意思決定部門・方針決定部門へ参加していく医師を育てる

日本医師会副会長 羽生田 俊

コメンテーター：日本医師会常任理事 保坂シゲリ

総合討論

第7回男女共同参画フォーラム宣言採択

秋田県医師会女性医師委員会委員 榎 真美子

次期担当医師会会長挨拶

富山県医師会会長 岩城 勝英

閉 会

秋田県医師会副会長 坂本 哲也

フォーラムの目的：医師社会における男女共同参画の推進

今回フォーラムのテーマ：『育てる～男女共同参画のための意識改革から実践へ～』
→昨年度鹿児島での第6回フォーラムテーマが「男女共同参画のための意識改革」であったことをうけて。

フォーラムの構成は、

1. 基調講演：村木厚子 内閣審議官『これからの「支え手」を考える－男女共同参画と子ども・子育て支援－』
2. 日医男女共同参画委員会報告と女性医師支援センター事業
3. シンポジウム『育てる～男女共同参画のための意識改革から実践へ～』
4. 第7回男女共同参画フォーラム宣言採択
5. 次期担当医師会長挨拶（富山県）

本フォーラムの目玉は基調講演を行った村木厚子内閣府政策統括官(共生社会政策担当)（先般のいわゆる郵便不正事件で無罪を勝ち取った＝氏の弁によれば負けなかった）と思われていたが、実際その口演と氏のキャリア人生による実体験談を聞き、非常に感銘深く印象に残ったので、その事を中心に記する。

今回、氏の講演内容すなわち主張を一言で言えば、『社会保障の持続可能性を維持するためには保障内容の充実（も大事だが）より支える構造の強化が必要』ということであった。なぜそうなるかをデータ解析から細かく判りやすく説明された。われわれの立場は社会保障の切捨ては許されないということが基本であるが、財源なき主張は空論にすぎないので、氏の論旨は傾聴に値する主張である。まあ、旧来からの厚労省一般の主張ではあるが。特に社会構造分析のグラフは見方によって種々に解釈できることが興味深かった。財源は消費税を当てるとというのが、氏及び厚労省一般の考え方のようなのである。消費税5%アップで得られる税収は12～13兆円。そのうち10兆円は医療・介護費の自然増に消えていくので、残り2～3兆円の中から1兆円弱の予算で子どもへの投資、子育て支援政策に当てたいとのこと。このことが単なるばら撒きではなくて、現在・将来の「支え手」を確保するいわば成長戦略であるという主張で、なかなかうまい理屈とおもわれた。まず現在の支え手たる働き手（とくに女性）を子育て支援で支え、また子どもに投資することで将来の支え手を確保するというわけである。

感想を述べれば、いいこと尽くめで異論はないが、現実是非正規雇用問題・性別賃金格差（オモテと構造的ウラの問題＝すなわち比較的高学歴で優秀な女性が適切な職業・職種についていない／つけない→力に見合った賃金を得ていない）がある。女性医師はこの点をマクロ的（現在の社会状況上女性医師は売り手市場）にはクリアしているが、逆にミクロ的には内的・外的要因でモチベーションが低くなるあるいはならざるをえない問題を抱え、キャリア中断やキャリアのダウンサイジングがおきている。その点に関して今回を含め過去のフォーラムでも成功事例が何度か報告されてきたが、まだ完全というには程遠い。氏はそこを何とか乗り越えて、まずは高度専門職業人の領域から男女共同参画を実現・推進して欲しいと説く。氏自身のキャリア官僚としての生き様からのエールと思われた。

2055年の支え手と支えられる人との割合を論じたとき、そのとき氏は100歳になっており、私はもうこの世にはいないかもと一瞬思ったが、いやいや今回の事件をしのいだことを考えると、意外と100歳まで生きているかもしれないと思い直したという笑い話が、氏の逞しさを感じさせた。また実は、その逞しさこそが現在女性医師が苦悶する問題の解決につながるヒントになるのだと感じた。先をあれこれ考えず、今考えてもどうしようもないことは考えず、与えられた職務を全うすることを日々繰り返すことで、人は職業人としてだけでなく、家庭人としても成長するのだという言葉は、巷にあふれる人生本以上に説得力のある語り掛けであった。出産育児と医師職の両立は可能だし、幾多の困難を乗り越えた暁には、より実り多き自己実現が待っているのだよというメッセージは、男女の別を超えて、力強い応援歌に聞こえたのである。前記した「負けない」ことが、「勝つ」こと以上に重要だという、いわば宗教にも似た感想を得た今回の基調講演であった。

